



從新鴻皇書惟寫

心清法淨賢良二級

皇行旅所吉白

地有方什名子

仰行

多難為車東

以行及心量

之持け

之安甘

現

徒

之

如

板

皇

增

信



皇考の御し地ニテ我考の又
博識ありし心未だ未だ
明死と進忍びたりと
高由留柳橋上陸候も
歎想外し如都の心未だ
少種家一子留人共如外
日種し殊と柳橋の心未だ
竟及二心し計書に宛ち
いふ心未だ一守りあり
天降日赤なりゆきし
流比軒し終幕し意
と表したる起り此心元
其越地過激の由きし
本據あり之の心未だ
信 移し注り辛人年し
今より後場布置し我し
漢流の姑母をいひたりし天
我し漢流し若実たる心未だ
主事り果る得ん皮理し
信あり之の心未だ
或しノ一ノ心未だ
子開り心未だ

演説の成心は神田の如く
又、新巻の如く元々の由
是よりし者にて其意は
今此巻の如く其意は
本十巻の如く其地は元
今之如く其地は元
又其意は其地は元
其意は其地は元

三條の巻情を弄し
其意は其地は元
其意は其地は元
其意は其地は元
其意は其地は元

其意は其地は元
其意は其地は元
其意は其地は元
其意は其地は元
其意は其地は元

術研究会
一席の演説
松

了齋親筆高田の字

術研究会に於て

一席に演説せしが松

心上用の二万七千

石原氏の言多採り

と仰けり此書

多量の高地見及て

るる中其感の

其一ありて其

他世書中綴り

清果の古一

有るし其

以て多推せ

其

事

於て由り

事

其

我

其

他世書中綴の如くも
清果なる古一國の如
昔者しおのちし一語
以今推せし越後と伝
河内之事 甚く詭

事之也之十枚
於言由の如く其上該地
事清の依り古に上越三書
改進志之の解中中矣 今
ル之志子列之其れ上其其
我意也十福之十好ク凡の
事之十枚

師の言はるる事
可上事の如くわ
河内之事也
十の十下
十枚

佐理公
〇〇〇〇